

スマホ依存 小学生も…医師が警鐘！！

～ 不登校、健康被害招くおそれ 親のまねに要注意！～

スマートフォンなどが手放せない「**ネット依存症**」の患者が**低年齢化**しています。

従来10歳代後半から20歳前後が中心でしたが、スマホが低年齢にも普及したことから、**最近では小学生が専門医を受診するケース**があります。

東京都のクリニックにおいて「ネット依存症」と診断された患者は、平成25年中285人で、6年間に約3.5倍に増えました。

依存の平均年齢は、17、18歳ですが、最年少は10歳でした。

クリニック院長は、**会員制交流サイト（SNS）が人間関係に影響し、常に連絡を取り合わなければ不安になる「きずな依存」が増えていると分析**しています。



また、低年齢層での依存が広がる背景には、「**親が依存のリスクを考えず、おもちゃ代わりにスマホを持たせることがある。**」と説明しています。

重度の依存症は、不登校や健康被害を招くおそれもあります。子どもの成績が落ち、不登校や引きこもりになるといった悪循環が生じるおそれがあります。



ネット依存症の予防や啓発に取り組む民間団体の代表者は、「**視力低下や肩こりなどが起きたり、使い過ぎを注意すると怒りだしたりする場合は依存が疑われます。また、親がSNSなどを常に利用していると、子どもが親のまねをして依存するきっかけになる。**」と注意を促しています。

【本情報は、2月19日付け、福井新聞記事を引用しています。】

本メールに関して御質問、お問い合わせがある場合は下記まで御連絡ください。

【担当】福井県安全環境部県民安全課 小林

電話：0776-20-0296（直通） メール：s-kobayashi-7g@pref.fukui.lg.jp

「家庭の日」推進テーマ3月「こどもの成長を祝い、みんなの夢を育てよう」

「青少年育成の日」推進テーマ3月「役割を自覚させ、やりとげる態度を育てよう」